

資料 2

令和4年度第1回誰もが共に暮らすための市民会議における 「令和3年度達成状況報告書（案）」についての意見

(1) 令和3年度達成状況報告書を受けて、感想や課題と覚えることについて

【事業番号1】

- ・ノーマライゼーション条例の理念・啓発、とても大事。条例10年を過ぎたところで、簡明版の見直しが必要ではないか。障害者の情報アクセスなど、新しい法律もできているので、新しい情報を盛り込んでいくべき。障害当事者も施設職員も参考にできる内容としてもしていく必要がある。当事者の話を聞いていくという体験を通して、理解を深めることが大切。
- ・小学校に配るだけでなく、配布後の結果を知りたい。
- ・広報課がツイッターで、「障害者に対する『差別』や『虐待』に関するパンフレット」を紹介していたのは良かった。
- ・普及啓発については「手話応援」の取り組みは素晴らしいので、達成状況に載せても良いと思われる。

【事業番号2】

- ・新しく参加された方の状況が見えない。概ね決まったメンバーが参加している。一般市民の参加者が見られないが、市はどのように広報しているのか。配布した数ではなく、一般市民に普及した効果があったのか知りたい。
- ・一般の人が参加できるような工夫をしてほしい
- ・市民に周知したほうがいい。
- ・理解を広げるためにはたくさんの人に参加してもらい必要がある。

【事業番号4】

- ・人権教育集会所という言葉は全く周知されていないので、知らなかった。広めるべき。

【事業番号7】

- ・YouTube 動画を作成したのは良いが、閲覧数を教えてほしい。

【事業番号8】

- ・職員向けの研修についても、内容を更新していかなければならない。現在の情

報にあっているのか、見直す必要がある。

- ・視覚障害のある自分が単独で何度か浦和区役所を訪れたが、現場の職員の対応は改善してきていると感じた。
- ・内部評価なので自画自賛的なものになってしまうのは仕方ないが、職員対象の研修などは、各課所で一人が参加するようなものが多く、それで参加した職員の個人的な感想をもって組織全体の評価とすることは疑問。

【事業番号 9】

- ・コロナ禍の中でも、合理的配慮の好事例の収集が実施できたことは良かったと思います。

【事業番号 10・12・13 共通】

- ・職員が研修を実施したということで、A がついている。それはそれでよいが、コロナの影響で各施設職員の出席率は100%ではない。全体の何パーセントが出席したのか、どんな研修を実施したのか。手話だけでは通じづらい方もいる。絵での表示など、職員への研修内容も見直す必要があるのではないかと。また、研修が役に立たなかったとしたら、内容が問題。そもそも役に立たないというアンケートの回答は書きづらい。そのアンケート結果を指標にすること自体、妥当なのか疑問。
- ・一般常識として、職員対象の研修参加者のアンケートにおいて「役に立った」と回答するのは「出席」と見なされる条件のようなものであり、これに対して70%などの目標を定めて目標達成などと評価するのはナンセンスと感じる。効果による評価が望ましいが、せめて出席者数や職員の何割に研修を行うと言った指標にすべき。(理解度についても同様)

【事業番号 14】

- ・市民後見人登録している人数や、受任件数を掲載しないと促進されているかはわからない。

【事業番号 19】

- ・初診待ち期間が増えているのにB判定はおかしい。
- ・ひまわり学園の受診待ちの期間が長いのは不安だろうと思う。目標と評価はこれでよいのかと思う。
- ・施設は西区と桜区に偏っている。特別支援学校も遠い。さいたま市としてどうなのかと思う。家族が送迎できない人はどうしているのかと思う。運転できて当たり前、仕事してなくて当たり前というのはどうなのかと思う。様々な特

性を持った方が地域で暮らしていて、家族の方が一番知識を必要とし勉強もしている。家族全体が生き方を変えないといけないこともあるなかで、窓口業務を行う方がひとくくりで見えるわけではなく、それぞれの家族の事情に合わせた対応が必要。

【事業番号 23】

- ・指標も無いのに評価が B は分からない。地域生活支援事業の移動支援は制約が多い。ヘルパーも高齢化進んでいる。

【事業番号 24】

- ・障害福祉サービス事業所の整備が建築資材不足から整備に至らなかったとのこと、卒業生達の進路が心配されます。定員に空きがあり、市外からの障害者を受け入れている施設などを見直し、市内の障害者利用を推進して対応するなど、不幸な市内障害者が出ないように願っています。

【事業番号 26】

- ・医療費の給付がすべて一緒に評価されているが、身体障害者と精神障害者で格差がある。問題の焦点が違っていると感じる。所得制限など絞られているうえでの「B」というのは検討が必要。すべての障害者に給付するのは難しいと思うが、障害の種別に関わりなく公平性にすべきだと思う。
- ・医療費は無料だが、自立支援の申請の際の診断書が有料なのがおかしいと思った。更新を忘れてしまう。手続きの合理的配慮が必要。

【事業番号 28】

- ・内容について大変好評である。自分が参加した時も、大変勉強になった。コロナの影響で回数が減ってしまって残念。さらに回数を増やしてほしい。

【事業番号 30】

- ・緊急の際の連絡先として医療センターが24時間体制で受けているが、状況を聞いて、明日かかりつけに行ってほしいといわれることが多い。それを言われるなら電話しないという声が家族会で聞かれる。
- ・電話を受けている件数は多いと思うが、つながっている件数が少ない。漏れている方が別に相談するなど苦労している。
- ・市ではやっているというが、当事者との実際の状況との格差がある。実状が伴わない。
- ・データだけで示されると疑問がある。

- ・数字ではなく内容が重要である。

【事業番号 34】

- ・さいたま市はほかの市町村より進んでいると思う。世間一般からすると A 評価かもしれないが、他の政令市と比較すると C 評価かもしれない。A 評価まで伸びしろがあると思うから、高次脳機能障害がこういった障害か知ってもらうためにもっと努力をしてもらえればいいのか。総合評価はあくまでも、自画自賛みたいところがあるので、当事者の声を含めてアンケートなどで評価に反映させてもらえたらいいのではないかな。

【事業番号 36】

- ・実感と評価での乖離を感じる。
- ・グループホームの定員だけでなく、満遍なく各区に整備できているかが大切。住み慣れた、今までの通所施設に通える地域に住めないと意味が無い気がします。
- ・グループホーム 1,000 人分できたので A。人数的にはそうかもしれないが、企業が参集してできたものであって、漏れ聞くとところだと、問題は多々ある様子。心配。A は違う。危険である。量だけではなく質。相談支援をしているが、グループホームの数が少ない。通所している事業所を継続して利用し、生活スタイルを変えずにグループホームを探すことが難しい。場所的な面でニーズに合った設置ができているのか疑問に感じる。地域偏在の課題。
- ・グループホームの整備について、行政が立てた目標への内部評価では、実態と相違がある。障害者の立場になって考えることが大切。あるグループホームでは待機者が 100 人。このような状況で A 評価なのか疑問。
- ・グループホームの整備について、多くの人が入りたいのに入れない。評価に違和感を覚える。目標が適切なのか。単に目標に対してのパーセンテージでは、正確な評価ができない。他の政令市と比べて低い。数が少ない他市は独自の施策をしている。
- ・重度の方のホームは増えていない。グループホーム入居を希望している人はどんどん増え、親の高齢化も問題だ。何年も前からグループホームの入居を希望していても実際は入れていない人が多すぎる。軽度のグループホームの利用者は、親が高齢になると実家へ戻るケースがある。軽度の方は、アパートなどの利用でも十分対応できると思う。実態を把握して早急に中度・重度のグループホーム整備をするべきと考える。
- ・グループホームを多く開業したことは一覧を見ればわかりますがそのほとんどが知的障害、精神障害対応であり身体障害対応のグループホームは充分と

は言えません。グループホームの設置に際してはある程度の補助金を設けた方が良くと思います。もしくは家賃補助を増額するのはいかがでしょうか。身体障害対応のグループホームは設置条件としてある程度の広さが必要であるため家賃を考えると不便な場所を作るしか出来ませんが、身体障害があるのであれば利便性がいいところ、公共交通機関（主に駅に）近い方がいいのではないのでしょうか。駅に近いところに拘るのはバスのバリアフリーが行き届いているとは言えないからです。そのようなところは地価が高く家賃も高くなってしまいうでしょう。障害者の収入のほとんどは年金ですから家賃が高くなってしまったらグループホームは利用できません。利便性がいいところは家賃が高くなることは当然で、それを個人の努力でなんとかすることが自由でしょうか？

- ・グループホームの整備が進んでいることは、多くの障害者が望んでいることで、これからも整備・促進をお願いしたいです。併せて、グループホームの実態調査をしていただきたいです。職員の人手不足からの放置が見られたり、入居前の利用者のマッチングなしからのトラブルがあるようです。

【事業番号 38】

- ・市営住宅の優遇に目標値がないのはなぜか。
- ・市営住宅の状況がわかるデータを持っていないから評価ができていないのではないか。担当課を超えて横断的に目標設定や評価を行うことも重要であると考え。
- ・市営住宅に障害者が入居できるようにしてほしい。

【事業番号 41】

- ・地域部会（地域協議会）を設置したから、相談支援が充実するわけではなく、各区からでた話し合いの中身をしっかりとさいたま市の自立支援協議会で受け止め、協議し、取り組みに生かす事で相談支援が充実すると思う。部会の運営を各区に任せきりで、しかも一年間かけて話し合った内容を、市役所職員の一存でA4一枚程度にまとめるような扱いを受けたら、各区もやる気が無くなると思います。
- ・さいたま市には視覚障害者の相談ができる場所がない。東京都は社会福祉協議会で相談を受けている。

【事業番号 44】

- ・取り組み内容で精神保健課では保健センターと連携して相談を対応したとなっているが、様々な困りごとに対し家族はどこに相談したらいいかわからな

いことがある。保健センターに行くことが多い。こころの健康センターに問い合わせることも多い。初動のところで、精神保健課が各保健センターと連携しながらとなっているから、精神保健課が中心になってくれるのかと考えたが、それでいいのか。困りごとがあったときに、どこに相談すればいいか、はっきりしていると助かる。連携してもらって相談してもらいやすいようによろしくお願いします。第一窓口がどこになるのか、はっきりしてもらえるとありがたい。思ったような回答が得られないことも多い。最終的には障害生活支援センターで相談させてもらいたい。

【事業番号 45】

- ・当事者、利用者がどういう感想、満足度があるかは報告書からは見えない。内部評価なので、A・Bが多いのかな、と感じた。相談を受けている立場でいうと、相談窓口はわからないだろうな、と感じている。とりあえず行くが、連携がどのようにされているか、行政に相談に行ってもそっち行ってください、と言われて支援センターにつながる方が多い。様々な支援体制の充実、関係機関との連携と書かれているが、連携の中身が問題だろう。アンケートなど、わかりやすい仕組みがあるといいと感じた。
- ・Bの評価の具体的な目標値や実績数を入れてほしい。
- ・障害者相談員は各区にいた方がよいと思います。実際に機能しているのか、相談件数を掲載してほしいです。また、相談員は地域協議会に参加すべきメンバーだと思います。

【事業番号 47】

- ・困っていることを言ってその場ですぐ答えを出るものではなかったが、様々な提案があり、その場で結論がでるものではなかったが、よかったと思う。

【事業番号 48】

- ・処遇改善加算は国の政策で、周知は評価対象ではないので評価から外すべきだと思います。むしろ、就職面談会の他にもさいたま市独自の施策を市民と共に考える必要があると思います。

【事業番号 51】

- ・一般市民ではなく、市職員についての内容なので、本来であれば、もっと達成できるはず。一般市民への呼びかけより、市職員の内部の方が呼びかけやすいと考える。コロナ影響ありということになっているが、DVDによる自己学習となったことで、逆に、集合型では仕事の都合上参加できない人がもっと参加

できたはずだと考える。研修開催の周知が足りないのではないか？また、この研修参加の意義を職員はあまり感じていないのではないか？ 実際、窓口で手話で挨拶などしてもらったりすることは大変少ない。受講した過去の経験者の人たちには、もっと使ってほしい。なんのための研修だったのか。聞こえない人も同じさいたま市民である。同じように対応してほしい。

- ・研修の内容に当事者の声を含めていく必要がある。場合によっては企画から関わってもらうのもよいのでは。

【事業番号 52】

- ・更生相談センターは積極的に活動しているが、高齢の部署の参加の機会になっていないことが気になる。
- ・高次脳機能の調査には高齢介護を入れないと調査できない。
- ・高次脳診断が出ていない人を含め、実態把握をしてほしい。
- ・必要な合理的配慮、特性に合わせた配慮を進めてほしい。そのような内容の職員研修になっているのかが気になる。
- ・当事者の声を聞いているかが疑問。
- ・関係職員の研修だが、広く対象を設定する必要がある。
- ・ライフプランに直結してくる。学校の理解も必要。社会的な影響も含めた生きにくさが研修に反映しているのか。
- ・人として生業がなくなる、生きがいなくなるのは避けなくてはいけない。
- ・書類は何をそろえればいいのかわからない。役所の方はわかると思うが、当事者、家族は知らない人は知らない。
- ・生活支援センターの方も手続きの方法を知らない人もおり、市もしっかりと関わってほしい。
- ・福祉サービスの利用にあたり、高次脳機能障害の場合、脳血管疾患は、介護保険、交通事故等は、障害者総合支援法のサービスです。更生相談センター高次脳機能障害者支援係が、いきいき長寿推進課にも支援方法などを研修し理解度100%を目指してほしい。

【事業番号 58】

- ・「障害者福祉ガイドブック」の冊子に視覚障害者向けの音声版などが作られていることは評価するが、この達成報告書もそうだが、例えば視覚障害者にはどの項目が関係するか、どんなサービスが使えるか、どこを読んでどこに問い合わせるべきかわからない。Webサイトなどを活用し、質問に答えて行くと関係する項目が表示さるなど、関連するサイトや相談先が表示されると言った仕組みを作ることは難しくはないはず、障害者当事者の意見や視点を踏まえて利

用者視点で作り直す事業を進めて欲しい。

【事業番号 58～60】

- ・情報提供について、当事者の評価が内部評価だと反映されない。3年に1回のアンケートに過去に1度答えたことがあるが、施策について聞いてみたらいいのではないか。

【事業番号 60】

- ・事業内容にそれなりの意味はあるが、昭和の時代から進化できていないことは問題。ICT技術を利用して視覚障害者もリアルタイムで新聞記事や書籍なども技術的には読める時代に、それを利用出来るような技術習得支援、支援者の育成などを進めて欲しい。
- ・どのように充実が図られているのかわからない。

【事業番号 61】

- ・選挙管理委員の方より、選挙事務の方の配慮が足りないと感じる。コロナ禍になり、マスク、衝立があり、名前の確認等行っているが、障害特性により添えていない。
- ・知的障害、精神障害の方に選挙公約がわかりにくい。投票場所までは同行可能だが、部屋の中にはついていけない。選挙管理委員が説明しているのか外から確認できるようにしていただきたい。
- ・公職選挙法に問題がある。選挙情報が点字や音訳がぎりぎり届く。選挙公報を作る手伝いをしているが、利用する立場、作成する立場であるからわかるが、膨大な資料の届いた日が投票日の5日前だった。睡眠時間を削って読んだ。法律を変えてくれるよう伝えるが、日程的につらいことをさいたま市も一緒に伝えてほしい。
- ・拡大鏡を使えば書けるが、いつも使っている濃い鉛筆のほうが見える。自分の筆記用具を持って行っていいのか、選挙管理委員会に聞くなど事前に相談している。前もってわかるのでうまくいくことが多いがその場で言われると相手も対応できない。急に言われても無理と言われることが多い。
- ・聞こえないと伝えると、コミュニケーションボードを用意する。不在者投票の場合、ボードが用意されていなかった。筆談でコミュニケーションできない障害者もいる。聞こえない場合は、すぐボードの用意をしてほしい。突然行っても大丈夫のようにボードの用意をしてほしい。
- ・事前の説明会などを利用し選挙事務の方に障害特性を周知してほしい。
- ・文言が難しい。漢字がたくさん。聞こえない方の中には、知的に問題がなくて

も長い文書を読むことが難しい人もいるため簡潔な文章が必要。選挙公報の配慮をしてほしい。読みやすくなれば投票しようという気持ちになる。

- ・さいたま市でどうこうできるわけではないが、公職選挙法を変える必要がある。選挙公報に載っている公約を点字、音声になるのは候補者の承諾が必要な状態。手元に届いているのは2人分なのに、TVは3名。2人なのか、3人なのかわからない。許可するのを忘れた等の理由により去年の選挙も立候補者の数に相違があった。
- ・施設では、職員が公約に目を通して、障害のある利用者が判断できればとわかりやすく表などにする。支援者から希望することは、立候補者による簡単な説明があるといい。
- ・街頭演説も手話通訳者がいない。候補者が手話通訳者をつけるかつけないかを決めるのではなく、全員につける法律になればいい。最高裁判官の評価もどのようにすればよいかわからない。○、×もどう評価すればよいかわからない。
- ・国政選挙の場合市として関わることは難しいかもしれないが、市の選挙では、合理的な配慮が可能なのではないか。市のお力添えが欲しい。候補者の承諾がないと音訳等がされないのは納得できない。一般の選挙公報と扱いがちがう。選挙をもっと平等にしてほしい。情報格差が生じてしまう法律に感じる。
- ・公職選挙法の改正を図って欲しいと思います。
- ・国や県とも連携して、すべての選挙で視覚障害などにより紙や画像の選挙公報が読めない有権者への情報保証を公的に確立して欲しい。

【事業番号 62】

- ・市立図書館としては素晴らしい取り組みができています。

【事業番号 64】

- ・視覚障害者に対する就労支援を行えていない。支援計画にあるとおり、国や県の視覚障害者に特化した機関に、間違いなく有機的連携を具体的に進めて欲しい。
- ・就労支援の充実は視覚障害者と感覚のずれがあると感じる。さいたま市は政令指定都市なので、視覚障害者に特化した相談場所がある。連携を図ると書いてあることがうれしかった。重度障害者就労支援事業の対象に視覚障害者の同行援護を加えてくれたことがうれしかった。
- ・新規に障害者雇用を始めた企業数が1件で評価Bは甘いと思います。

【事業番号 66】

- ・市職員の力で達成できる部分が多いと感じる。なぜ優先的、積極的に全庁的に

取り組んだにもかかわらず、目標が達成できないのかを知りたい。

【事業番号 67】

- ・カタログをどこに置いているのか、何か所置いているのかわからないと評価のしようがない。

【事業番号 69】

- ・指標も実績も分からない評価は評価不能で良いと思います。件数を掲載してほしい。
- ・視覚障害者に対する同行援護にも適用された事は、全国でも先進的な取り組みとして素晴らしい。制度の周知啓発と共に、手続きの煩雑さなどで利用が困難にならないように進めて欲しい。

【事業番号 70】

- ・差別解消、合理的配慮は義務。よかれと思ってやったら危なかったということがある。「思いやり」ではなく、どうすれば合理的配慮ができるかという研修にした方がいいのではないか。
- ・研修のタイトルが「思いやり」はネーミングが日本人的で違和感を感じた。

【事業番号 73】

- ・実感と評価での乖離を感じる。
- ・以前と比較による評価は理解できるが、国の定めている指標や他市と比べて評価することも重要ではないか。さいたま市だけの評価ではなく、国の施策に沿ってどうかなどの評価、必要としている人が満足しているかなどを評価することが大切。
- ・スロープを出す場所がないなどのハード面の不足がある。
- ・運転手の研修が足りていないのではないか。
- ・導入率の実績に対してもっと増やしてほしい。目標値は達成しているが、生活の実感としてもう少し増える必要がある。

【事業番号 75】

- ・1事業所が減るといのは、コロナの影響があると感じない。相談支援で見るケースとして、こどもの送迎に移動支援がなくなってしまうと親の就労が継続できない。夕方の支援はニーズが高い。みんな希望の日数には届かないという現状がある。目標に対して1減ではなく、ニーズに対してどのくらい足りないのかという指標とすべき。またヘルパー不足に対して補助をするなど。ヘル

パーの年齢として高齢層が多い。セカンドキャリアになっているので、短時間就労が多く、ニーズと合わない。若いヘルパーをどう巻き込んでいくか、学生を取り込むとか。こんな簡単な指標で判断をしないでほしい。

- ・ガイドヘルパーをもっと増やしてほしい。
- ・移動支援の評価は事業所の数ではなく、移動支援を利用したい人々の希望時間数に対して、事業所がどれだけの時間数サービス提供・又は用意できているかで見るとはいいか。特に放課後等デイサービスに代わる成人期の夕方のサービスとしての需要、土日の長い時間の外出への需要に追いついていない。

【事業番号 76】

- ・療育手帳 B も福祉タクシー券の対象としてほしい。

【事業番号 84】

- ・障害者手帳アプリは初耳で周知が足りていない。

【事業番号 85】

- ・災害時要配慮者支援マニュアルは福祉サービス事業所にも配布すべきだと思う。

【事業番号 86】

- ・障害者が利用できる避難所をわかりやすくしてほしい。

【事業番号 87】

- ・避難行動要支援者名簿について、利用者の面談で確認をしたことがあるが、民生委員に知られたくないという心理が働き、あえて出していないという方もいる。民生委員の人柄次第では、嫌がる方も。民生委員のモラル的な面は教育されているのか。日頃から顔を合わせていないと、いざという時の支援につながらない。そういった面を考えると A でよいのかと感じる。
- ・避難行動要支援者名簿、A 評価になっていることが疑問。名簿は障害者に対してきちんと出されているか、自身も出していない。ろう者、車いす、視覚障害、何かあったときに支援が必要。ろう者は見た目からは支援が必要とわからないので、支援をしてもらえるのか不安。年 1 回でも民生委員が障害者を訪問するなどして、把握をしてほしい。以前、郵便で登録の依頼があったが、出し損ねてしまった。連絡が電話だったので、気づかなかった。その後、訪問された際、在宅だったのにインターフォンに気づかず。後に、役所に相談して、民生

- 委員が訪問するも、手話通訳者を同行しておらず、やりとりが大変であった。
- ・ 3月に東北で地震があったとき、停電になった。情報が得られず大変であった。たまたま民生委員が、日ごろから連絡を取り合っている人だが、何も連絡がなかった。隣人の高齢者は名簿を出していたので対応をしてもらえたが、自分の家には来ず、不安に感じた。消防署に行って停電の理由を聞いたら教えてくれた。名簿は大事だが、提出していない人へもフォローが必要。名簿があるだけでなく、それに基づいた支援が行われる必要がある。
 - ・ 自治会等に周知しているようですが、「防災訓練があるから参加してください」など呼びかけを受けたことが一度もありません。総合評価が A とは納得できないですね。
 - ・ 防災訓練があるという声かけがない。手紙が配布されているようだが、要介護者がいるということを把握しているのか疑問。

【事業番号 89】

- ・ 避難所運営訓練に関しては各区の障害者団体を通じてもいいが、個人でも、必ずその地域に住む災害時要配慮者が参加できるよう配慮が必要と思います。
- ・ 障害者用の防災キットがほしい。

【事業番号 91】

- ・ 緊急通報システムの目標数を明確にしてほしい。

【事業番号 92】

- ・ 送受信検査を毎日実施しているとあるが、障害者側が使えることの検証が行われていたのか、疑問を感じる。

【事業番号 93】

- ・ 緊急時安心キットの目標を明確にしてほしい。

第6期障害福祉計画及び第2期障害児福祉計画

(2) 精神障害者を支える地域包括システムの構築

- ・1年以上入院した患者数を減少させるとの目標があるが、意図が分からない。前の計画と表記が変わっている。精神病棟に長期入院する高齢の方が多くいるので、そういった人たちの声が届かない。政策委員会で議論してほしい。説明をしてほしい。非常にショックな記載の仕方。具体的な数値目標があったところ、「減少」となっている。タイトルが地域包括ケアシステムというのも馬鹿にしているように感じる。

(3) 地域生活支援拠点等が有する機能の充実

- ・親なきあとを考えると期待だけをさせて実態が伴わない。
- ・すでに地域生活拠点があるとのさいたま市の説明、しかも多機能な設備があるのではなく面でやっているという前提で進めているが、実態としては、課題が生じたケースでは、支援者がつてを使ってつなげている状態。相談支援という業務であるのに、多機能であるという見せ方をしている。地域で何かが足りないという要望に対して、市の意欲が足りないように感じる。もっと話を聞く姿勢がない。「年1回」という実績は何の回数なのか。当事者としては、地域生活拠点とは、そこがあれば安心という施設であるのに、実態は支援者がつなぐネットワークでできている。
- ・地域生活支援拠点はどこにあるのか。さらに運用状況について検証・検討しているなら結果を市民に分かりやすく教えてほしい。特に重度障害者の体験の場、緊急の受け入れ先はほぼ無いに等しい。

(6) 相談支援体制の充実・強化等

- ・基幹相談支援センターを作るだけでなく、計画相談を含めて、過重な負担を相談員に掛けずに、相談事業が成り立つ報酬体系を現場と共に考え、事業者・相談員を減らさない努力が必要だと思います。

(2) その他

【障害者総合支援計画達成状況関連】

- ・令和3年度状況報告を受けての感想は、全体19件中意見表明が大半できた方が15件と多数であったので、より良い市政に活かせるチャンスがあつてよかつたと思う。
- ・達成状況を拝見させていただきました。数値から見る、80%達成ということで、上々の結果だと思えます。これは、コロナ禍でなければもっと良い評価になったと考えられるのであれば、今後に繋げていけると思いました。また、コロナなどの対策を踏まえて、次の達成状況の課題となると思えます。
- ・コロナ禍にありながら、目標達成率83%というのは、市としてご苦労された成果かと、評価できると思えます。しかしその中で、重点目標達成率が80%に留まっているのは、先々が心配になります。何よりも優先して達成するためにも、当事者団体とも連携し、積極的に取り組んでいただきたいです。各事業について、コロナ禍の影響がある中で、対策を取りつつ開催していることのアピールや、宣伝の方法など、まだまだ工夫ができるかと思われまふ。イベントや講習会などで参加者を増やすことができれば、理解者を増やすことにつながると思われまふ。今後、当会議参加者の皆様とも話し合つていきたいです。
- ・3カ年計画の初年度がコロナ禍で事業が進まなかつた分を、2022、23年で実施していただきたいです。
- ・計画全体の問題として、実績報告だけでは測れないことを行政が自覚するべき。アウトプットとして、計画の事業を実施した結果、障害者が暮らしやすくなつたのかというのを図つていくのか施策の評価。そこからどんな施策をやつていくのかを検討していくべき。これに時間をかけるのであれば、違つた評価の仕方に時間をかけていくべきではないか。
- ・もっと生活ベース、リアリティに沿つた評価。
- ・計画のアンケートを実施すると思ふが、そのアンケートも施策の評価として使えないものか。障害者の実感としての施策の評価。計画を作るためのアンケート、計画を策定、施策がぶつ切りになつていふように感じる。税金の無駄。そういうことを政策委員会で検討してほしい。
- ・令和2年度と3年度で目標が下方修正されていたり、成果指標が変化しているものがあり、それで評価があがつている。目標や成果指標が違つたのであればその理由もわかるとよい。
- ・目標値は達成しているが、生活の実感としてもう少し増えてくれると嬉しい。
- ・コロナ禍で不安定な状況の中、イベント等への参加は難しかつたものの、2年あまりのコロナ感染予防対策をしながら工夫を重ねて計画実行してきていふと感じました。

- ・バリアフリーやユニバーサルデザインなどの評価に関しては、健常者の職員にはできないと思います。職員が「A」評価している事業には「え～、そんな高いの？」というものが多くありましたし、「C」評価している事業には「いやいや、もっと高いよ」というものがあつたので、職員以外の評価も検討してはどうかな、と思いました。最終的に、障害者政策委員会に報告するのであれば、障害者や支援者の意見を反映させているのかどうかが大事だと思います。
- ・意外といろんなことに取り組みられているんだなと思いました。同時に、”だれもが共に暮らすため”には一般的な人たちへの認知がもっと進まないといけないと思います。自分から進んで情報を得ようとしないと、なかなかこの会議まで辿りつきません。
- ・資料読む限り、A、Bでおおむね評価があるが、実態と乖離していると感じる。
- ・初めての参加で、たくさん事業番号があつて、やっていたことを知らないことが多かつた。ABCの評価について、内部評価という説明があつたが、もっと深めていくといいと思う。

【市民会議関連】

- ・知的障害の人と触れることしかなく、身体障害の人の意見が貴重になつた。
- ・参加者の中にはコロナ禍でも書面参加より対面参加で生の声が聞きたい方もいらつしゃつた様なので、それはリスク回避の為の方策という事で書面参加は良いのではないかと思います。

【コロナウイルス関連】

- ・コロナ禍と天候悪化や体調不良などが続くと薬や診察などが不安になるときもある。実際影響あつた。
- ・コロナ禍だと日常の日々の買い物にも不安を感じる時もある。
- ・移動にも不安を感じることもある。コロナ禍とロシアのウクライナ情勢で燃料費が上昇している。
- ・コロナ禍で多くの人々の集まる行事の中止があり、事業の実施ができなかつたことは残念でした。
- ・コロナ禍で聞こえない人にとって、発熱がある際どこの病院に連絡すればいいかわからない。電話ができないから病院の相談ができない。目で確認するにもさいたま市のHPはわかりにくい。
- ・ホテル療養の食事の連絡が電話。聞こえない人は自宅にしてくださいと言われた事例を聞いたことがある。

【高次脳機能障害関連】

- ・高次脳機能障害は周囲からわかりづらい障害。いろんな症状があり自分は失語症で思ったことが言えない。困っているのだけど、何がどう困っているか言えない。手話通訳のように伝える人がいればいいが、そのような人はいない。何か意見ありますか、と言われても、しゃべれないから、意見ないですね、となってしまうこともある。
- ・「高次脳機能障害です。」と言ってもどういう障害かというか、どう困っているかをわかってもらえない。障害者同士でも似たところもあるし、違うところもある、と感じた。

【視覚障害関連】

- ・視覚障害もあるから、点字ブロックがあれば点字の上を歩く。点字は読めないが、点字ブロックに沿って歩いていくと、壁にあたる。下りの階段は怖いから下りのエスカレーターがあるといいが、上りに比べて少ない。ユニバーサルデザインではないと感じる。気づいてもらえるような社会になるといいと思う。
- ・点字に何が書いてあるかが分かるといいと思った。点字で視覚障害者に何を伝えているかを、周囲にもわかるといいと思った。
- ・市内の公園の草むらに点字があった。近づいてみたら、まむしに注意とあった。思いやりかもしれないが、思いやりではない。
- ・点字ブロック歩いていたら段差があって転んだ。危険なため修繕を依頼したが直してもらえない。危険箇所は市民が市にあげていくことで、市民と市の連携になっていいことなのではないか。
- ・点字ブロックを歩いていたら、カラーコーンがあって、塗りたて危険とあった。思いやりがないと思った。
- ・点字ブロックが1本しかなくて正面衝突。障害者の人の立場になって考えることが大切。

【その他】

- ・生活の糧を得るための情報のとり方にも不安を感じる、影響を感じる。
- ・緊急の連絡先の基準について教えて下さい。
- ・市政について市民の声が届くような番組があるとよい。
- ・精神の場合は方向性の違うものがたくさんあって課題が多い。